

SBIインド & ベトナム株ファンド

追加型投信/海外/株式

交付運用報告書

第21期(決算日:2017年12月4日)

作成対象期間(2017年6月6日~2017年12月4日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBIインド&ベトナム株ファンド」は、2017年12月4日に第21期の決算を行いました。

当ファンドは、主としてマザーファンド受益証券への投資を通じてインド及びベトナムの株式等に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。ここに期中の運用状況と収益分配状況についてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第21期末(2017年12月4日)

基準価額	11,182円
純資産総額	10,372百万円
第21期	
騰落率	13.1%
分配金(税込み)合計	0円

(注1) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択⇒「目論見書・定期レポート等」を選択⇒「運用報告書(全体版)」より該当の決算期を選択ください。

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

〒106-6017 東京都港区六本木 1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間: 営業日の 9:00~17:00

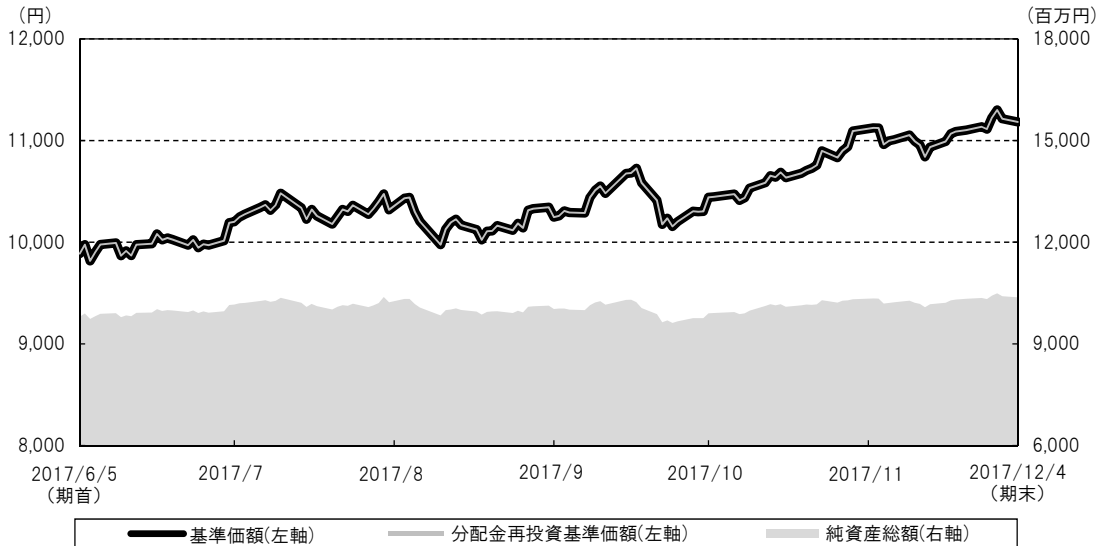
ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiam.co.jp/>

運用経過

基準価額等の推移

(2017年6月6日～2017年12月4日)



期 首： 9,887 円

期 末： 11,182 円 (既払分配金(税込み):0 円)

騰 落 率： 13.1% (分配金再投資ベース)

- (注1) 当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じてインド及びベトナムの2カ国の株式等に投資するファンドのため、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したとみなして計算し、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注4) 分配金再投資基準価額は、期首(2017年6月5日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

○基準価額の変動要因

当期の基準価額は、インド株式市場及びベトナム株式市場の上昇に加えて、通貨インドルピーやベトナムドンが対円で上昇したことなどを受け、大きく上昇しました。期初は、物品・サービス税(GST)導入を控えて投資家の様子見姿勢が強まり、インド市場が一進一退で推移したことから、2017年6月7日に当期の最安値である9,817円を付けました。しかし、6月中旬以降は、ベトナム市場の年初来高値更新に加えて、インド市場が堅調に推移し過去最高値を更新したことにより、当ファンドの基準価額は緩やかな上昇基調が継続しました。8月から9月にかけては、北朝鮮情勢を巡る地政学リスクの高まりなどから、一時的に調整しましたが、10月以降はインド政府による景気刺激策の発表やベトナム市場の年初来高値の更新が続き、当ファンドの基準価額は上昇に転じました。11月以降は、ベトナム市場の急騰に加えて、米大手格付け会社によるインドの格上げが好感され、当ファンドの基準価額は上昇基調が継続し、11月30日に当期の最高値である11,301円を付けました。当期末の基準価額は11,182円となり、期を通じて+13.1%の上昇となりました。

1 万口当たりの費用明細

(2017年6月6日～2017年12月4日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
	円	%	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	113 (69) (40) (5)	1.077 (0.657) (0.377) (0.043)	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	15 (15)	0.143 (0.143)	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手 数料です。
(c) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	8 (8)	0.078 (0.078)	(c)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税 金です。
(d) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (そ の 他)	31 (8) (1) (22)	0.292 (0.073) (0.011) (0.208)	(d)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行に支払う有価証券等の保管及び資金 の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 インド株式の売買益におけるキャピタルゲイン課税等、信託事務の処理等に 要するその他費用
合 計	167	1.590	
期中の平均基準価額は10,493円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注5) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

最近5年間の基準価額等の推移

(2012年12月4日～2017年12月4日)



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したとみなして計算し、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2012年12月4日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2012年12月4日 決算日	2013年12月4日 決算日	2014年12月4日 決算日	2015年12月4日 決算日	2016年12月5日 決算日	2017年12月4日 決算日
基準価額 (円)	4,758	5,823	8,929	8,584	8,336	11,182
期間分配金合計(税込み) (円)	0	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	10.4	22.4	53.3	△ 3.9	△ 2.9	34.1
SENSEX 指数騰落率 (%)	11.6	18.8	60.2	△ 13.7	△ 8.0	31.1
VN 指数騰落率 (%)	4.1	69.5	28.4	△ 1.9	5.3	44.4
純資産総額 (百万円)	8,257	8,005	10,817	9,203	8,608	10,372

- (注1) 当ファンドは、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していないため、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として、インドでは SENSEX 指数^{*}、ベトナムでは VN 指数^{*}を記載しております。
- (注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- ※各指数は円建て

●代表的な指数に関して

- ・SENSEX 指数は、インドのムンバイ証券取引所に上場する銘柄のうち、流動性・取引規模・業種等を代表する30銘柄で構成された時価総額加重平均指数のことで、インド株式市場の代表的な株価指数です。
- ・VN 指数は、ベトナムの最大都市ホーチミンにあるホーチミン証券取引所に上場の全銘柄から構成される時価総額加重平均指数のことで、ベトナム株式市場の代表的な株価指数です。

投資環境

(2017年6月6日～2017年12月4日)

○インド株式市場

(6月)

・物品・サービス税導入時の混乱等への懸念から、投資家の様子見姿勢が強まり、小幅に下落しました。

(7月)

・インド企業の好調な四半期業績を背景に、インド株式市場は過去最高値を更新しました。

(8月)

・北朝鮮情勢を巡る地政学リスクの高まりなどを受けて、投資家のリスク回避姿勢が強まり、反落して取引を終えました。

(9月)

・外国人投資家の売り越しが続いたことに加えて、北朝鮮情勢への懸念が再燃したことから、続落となりました。

(10月)

・インド政府が発表した国営金融機関への資本注入やインフラ整備などの景気刺激策が好感され、インド株式市場は再び過去最高値を更新しました。

(11月)

・米大手格付け会社によるインドの長期債務格付けの引き上げを受けて、インド株式市場は堅調な展開となり、過去最高値圏で推移しました。

○ベトナム株式市場

(6月)

・良好な経済指標や景気見通しの改善により、ベトナム株式市場は上昇基調を維持する展開となりました。

(7月)

・投資家の利益確定売りに押され軟調推移となったものの、月末にかけて反発、年初来高値を更新しました。

(8月)

・北朝鮮情勢の緊迫化に伴う地政学リスクの高まりなどから、利益確定売りが優勢となり、小幅に反落して取引を終えました。

(9月)

・外国人投資家が売り越しに転じたものの、ベトナム株式市場は年初来高値を更新しました。

(10月)

・国内投資家主導で銀行や不動産セクターが買われたことから、ベトナム株式市場は年初来高値の更新が続きました。

(11月)

・外国人投資家が買い越しに転じたことに加えて、時価総額上位銘柄が大きく上昇したことにより、ベトナム株式市場は大幅高となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2017年6月6日～2017年12月4日)

<当ファンド>

「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」及び「SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」といった各受益証券を通じ、主としてインド及びベトナムの株式等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。

<LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

運用の再委託先であるLGM・インベストメンツ・リミテッドにより、インドの証券取引所で上場または取引されている株式の中から収益性や成長性等を総合的に勘案し厳選投資いたしました。

株式の組入比率に関しては、90%以上の株式組入比率を維持しました。期末の株式組入比率は95.7%となっております。

<ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

運用の再委託先であるSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドにより、インドの証券取引所で上場または取引されている株式の中から収益性や成長性等を総合的に勘案し厳選投資いたしました。

株式の組入比率に関しては、95%以上の株式組入比率を維持しました。期末の株式組入比率は98.4%となっております。

<SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

インドの証券取引所で上場または取引されている株式等を主要投資対象とし、収益性や成長性等を総合的に勘案した銘柄に厳選投資いたしました。

株式の組入比率に関しては、50%以上の株式組入比率を維持しました。期末の株式組入比率は99.7%となっております。

<SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

ベトナムの証券取引所で上場または取引されている株式等を主要投資対象とし、収益性や成長性及び流動性等を総合的に勘案した銘柄に厳選投資いたしました。

株式等の組入比率に関しては、90%以上の組入比率を維持しました。期末の株式等の組入比率は92.5%となっております。

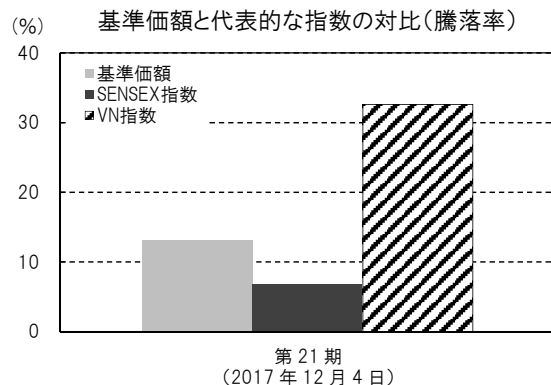
当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年6月6日～2017年12月4日)

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じてインド及びベトナムの2カ国の株式等に投資するファンドのため、ベンチマークは採用していません。

また、適当な参考指数もないことから当ファンドの基準価額と、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数としてインドでは SENSEX 指数[※]、ベトナムでは VN 指数[※]を記載しております。

※各指数は円建て



分配金

(2017年6月6日～2017年12月4日)

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項目	第21期
	2017年6月6日～ 2017年12月4日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,268

(注1) 対基準価額比率は、当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金(税込み)と一致しない場合があります。

今後の見通しと運用方針

<当ファンド>

引き続き「ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」及び「SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」の各受益証券を通じ、主としてインド及びベトナムの株式等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ってまいります。

<LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

運用の再委託先であるLGM・インベストメンツ・リミテッドは以下のようにコメントしています。

世界第7位の経済規模を持つインドは、「真の」新興国市場です。1人当たりGDPは2,000ドルを下回っているものの、経済の急成長は続いています。健全な民主主義や効果的な政策決定に加えて、好ましい人口動態やマクロ経済の改善は、インド経済や株式市場の見通しを長期的に下支えています。我々は、引き続きインドには長期的な投資機会があり、質の高いインド企業は魅力的な投資先と考えています。

我々の短期的な投資戦略は、インドの長期的な成長見通しを捉えるものになっています。引き続きボトムアップ・アプローチにより質の高いインド企業への長期投資に注力する方針です。我々は、投資先企業の質を重視する投資哲学やボトムアップ・アプローチを採用し、国内重視のインド企業を選好していることから、生活必需品、一般消費財関連、金融の組入比率を高め、エネルギー、公益事業、ヘルスケア、ソフトウェア・サービス、電気通信サービスの組入比率を低下させています。

<ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

運用の再委託先であるSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドは以下のようにコメントしています。

インド企業の収益が比較的控え目な水準となる中、2018年3月期の増益率見通しは、前年同期比の数値が低水準だったことによるベース効果に加えて、物品・サービス税導入後の在庫投資の改善、高額紙幣廃止の混乱による企業収益への悪影響が消失することにより、回復基調が続くとみえています。インド政府の構造改革や健全な流動性がインド株式市場を下支えているものの、主要な州議会選挙や2019年の総選挙の実施時期が近付く中、与党人民党に対する政治的な支持がより注目を浴びようになり、市場動向にも影響を及ぼすことになるとみられています。現在のインドの株式市場のバリュエーションを考慮すると、ボトムアップ・アプローチによる銘柄選定が引き続き極めて重要になると我々は考えています。

今後3-6カ月間並びに今後1年間のインド株式市場の見通しに関して、我々は前向きな見方をしています。

<SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

高額紙幣廃止や物品・サービス税の導入による混乱が一巡し、インド政府による景気刺激策が発表されたこともあり、インド経済の成長率やインド企業の収益見通しが改善するとの見方が広がりつつあります。また、モディ政権によるインドの構造改革の進展期待から、インド株式市場には国内外の投資家から資本流入が継続しています。インド市場は、短期的には国内外の様々な要因の影響を受けながらも、投資家によるインド株の買い越し基調が継続していることから、中長期的には緩やかに上昇していく展開が想定されます。

以上の見通しにより、インド株を主要投資対象とする上記の各受益証券については、対純資産比率で80%前後の組入比率を目標として運用する方針です。

<SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

ベトナム経済は引き続き好調を維持しており、比較的若い人口動態や低コストの労働力を強みとして、前年比+5-6%台の高成長が続く見込みです。ベトナム株式市場は、経済成長低インフレの実現により、中長期的には上昇基調が継続すると予想されますが、上昇ペースが加速したことから、短期的には調整も予想されます。

以上の見通しにより、当面は対純資産比率で10-15%前後の組入比率で運用を行います。必要に応じて、銘柄入れ替えを行いながら運用する方針です。

※上記見通しと運用方針のうち、「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」および「ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」については、それぞれ運用の再委託会社である LGM・インベストメンツ・リミテッド、SBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドからのコメントを SBI アセットマネジメントにて和訳したものを記載しております。

お知らせ

・当ファンドが投資するマザーファンドについて、運用再委託先からの要請に基づくマザーファンド名称の変更に伴い、信託約款に所要の変更を行いました。

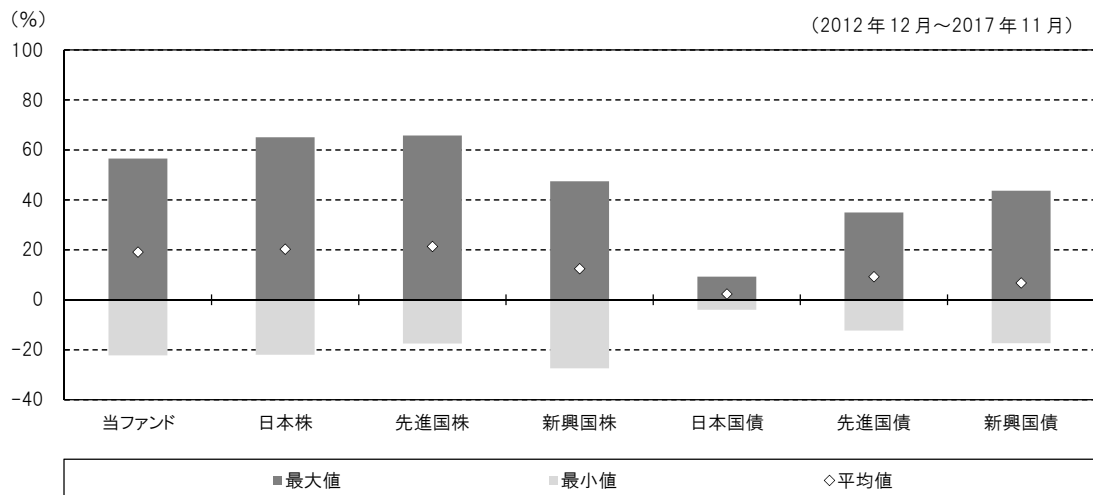
(変更日:2017年9月6日)

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	原則として無期限(クローズド期間はありませぬ)	
運用方針	ファミリーファンド方式により、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」及び「SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」受益証券(以下「マザーファンド」といいます。)を主要投資対象とします。
	L G M インド株・ マザーファンド	インドの証券取引所で上場または取引されている株式(預託証券を含みます。)を主要投資対象とします。
	ステイト・バンク・オブ・ インディア インド株・ マザーファンド	インドの証券取引所で上場または取引されている株式(預託証券を含みます。)を主要投資対象とします。
	S B I A M インド株・ マザーファンド	インドの証券取引所で上場または取引されている株式(預託証券を含みます。)を主要投資対象とします。
	S B I A M ベトナム株・ マザーファンド	ベトナムの証券取引所で上場または取引されている株式(預託証券を含みます。)ならびに当該株式の値動きに連動する債券、新株引受権証券等を主要投資対象とします。
当ファンドの 運用方法	各マザーファンドを通じて主にインド及びベトナムの株式に投資を行います。マザーファンドへの投資割合には制限を設けません。ベトナム株への実質的な投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。外貨建資産において、原則為替ヘッジは行いません。	
分配方針	毎決算時に、基準価額水準及び市場動向等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合等、委託者の判断により収益分配を行わないこともあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	56.5	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△ 22.2	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	19.1	20.3	21.4	12.5	2.3	9.3	6.8

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2012年12月から2017年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注4) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株:東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株:MSCI KOKUSAI(コクサイ)・インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株:MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み・円ベース)

日本国債:NOMURA-BPI 国債

先進国債:シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債:JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数についての詳細は、最終ページをご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2017年12月4日現在)

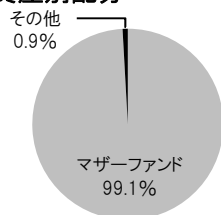
○組入上位ファンド

銘柄名	第21期末
	%
LGM インド株・マザーファンド	43.6
ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド	40.3
SBIAM インド株・マザーファンド	2.6
SBIAM ベトナム株・マザーファンド	12.6
組入銘柄数	4銘柄

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

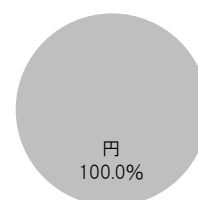
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分は組入株式評価額に対する比率です。

純資産等

項目	第21期末
	2017年12月4日
純資産総額	10,372,762,863円
受益権総口数	9,276,279,309口
1万口当たり基準価額	11,182円

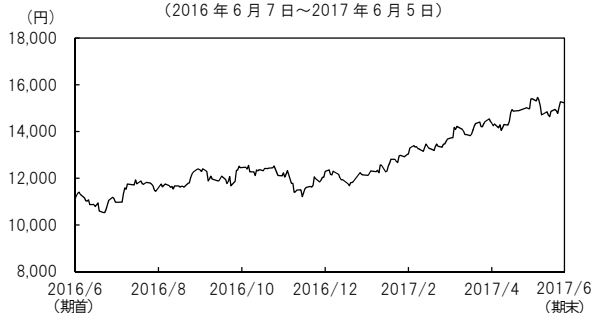
(注) 期中における追加設定元本額は1,451,482,938円、同解約元本額は2,086,122,470円です。

組入上位ファンドの概要

LGM インド株・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2016年6月7日～2017年6月5日)



【1万口当たりの費用明細】

(2016年6月7日～2017年6月5日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	7 (7)	0.058 (0.058)
(b) 有価証券取引税 (株式)	7 (7)	0.057 (0.057)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	12 (12) (0)	0.094 (0.094) (0.000)
合計	26	0.209

期中の平均基準価額は、12,685円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

【組入上位 10 銘柄】

(2017年6月5日現在)

	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	ITC	食品・飲料・タバコ	インドルピー	インド	5.4
2	HDFC銀行	銀行	インドルピー	インド	5.2
3	ヒンドゥスタン・ユニリーバ	家庭用品・パーソナル用品	インドルピー	インド	5.0
4	コタック・マヒンドラ銀行	各種金融	インドルピー	インド	4.9
5	プリタニア・インダストリーズ	食品・飲料・タバコ	インドルピー	インド	4.9
6	HDFC	銀行	インドルピー	インド	4.5
7	エマミ	家庭用品・パーソナル用品	インドルピー	インド	4.0
8	ICICI銀行	銀行	インドルピー	インド	3.9
9	ネスレ・インドア	食品・飲料・タバコ	インドルピー	インド	3.8
10	インダスインド銀行	銀行	インドルピー	インド	3.5
	組入銘柄数		31 銘柄		

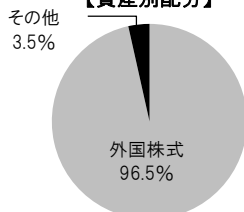
(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※HDFC銀行はHDFCのグループ企業です。

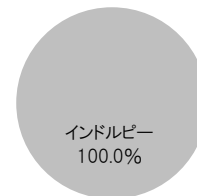
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位 10 銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは 2017 年 6 月 5 日現在のものです。

(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。

ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2016年6月7日～2017年6月5日)



【1万口当たりの費用明細】

(2016年6月7日～2017年6月5日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	26 (26)	0.193 (0.193)
(b) 有価証券取引税 (株式)	22 (22)	0.167 (0.167)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	179 (20) (158)	1.346 (0.154) (1.192)
合計	227	1.706

期中の平均基準価額は、13,291円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

(2017年6月5日現在)

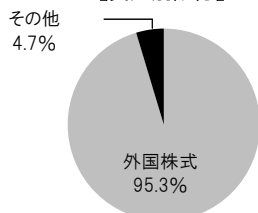
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	インフォシス	ソフトウェア・サービス	インドルピー	インド	7.9
2	アクシス銀行	銀行	インドルピー	インド	4.4
3	HDFC	銀行	インドルピー	インド	4.3
4	ヒンドウスタン・ユニリーバ	家庭用品・パーソナル用品	インドルピー	インド	3.9
5	インドステイト銀行	銀行	インドルピー	インド	3.6
6	HDFC銀行	銀行	インドルピー	インド	3.5
7	タタ・コンサルタンシー・サービス	ソフトウェア・サービス	インドルピー	インド	3.4
8	マヒンドラ・マヒンドラ	自動車・自動車部品	インドルピー	インド	3.1
9	ヒーロー・ホンダ	自動車・自動車部品	インドルピー	インド	2.9
10	ICICI銀行	銀行	インドルピー	インド	2.3
	組入銘柄数		51銘柄		

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

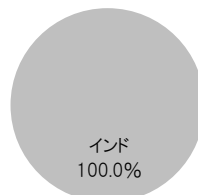
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

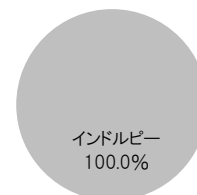
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2017年6月5日現在のものです。

(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。

SBIAM インド株・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2016年6月7日～2017年6月5日)



【1万口当たりの費用明細】

(2016年6月7日～2017年6月5日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	16 (16)	0.177 (0.177)
(b) 有価証券取引税 (株式)	10 (10)	0.109 (0.109)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	34 (34) (0)	0.370 (0.370) (0.000)
合計	60	0.656

期中の平均基準価額は、9,255円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

(2017年6月5日現在)

	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	HDFC銀行	銀行	インドルピー	インド	11.7%
2	ITC	食品・飲料・タバコ	インドルピー	インド	10.0
3	HDFC	銀行	インドルピー	インド	8.9
4	リライアンス・インダストリーズ	エネルギー	インドルピー	インド	7.5
5	インフォシス	ソフトウェア・サービス	インドルピー	インド	6.7
6	ICICI銀行	銀行	インドルピー	インド	6.2
7	ラーセン&トププロ	資本財	インドルピー	インド	4.9
8	タタ・コンサルタンシー・サービス	ソフトウェア・サービス	インドルピー	インド	4.7
9	マルチ・スズキ・インド	自動車・自動車部品	インドルピー	インド	3.3
10	タタ・モーターズ	自動車・自動車部品	インドルピー	インド	3.2
組入銘柄数		30銘柄			

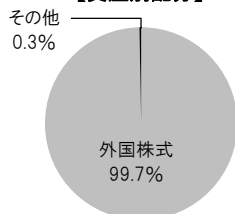
(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※HDFC銀行はHDFCのグループ企業です。

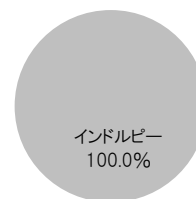
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2017年6月5日現在のものです。

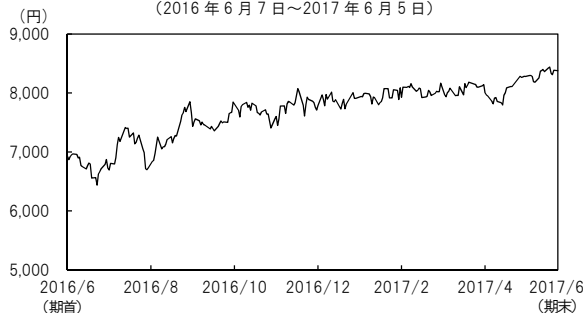
(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。

SBIAM ベトナム株・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2016年6月7日～2017年6月5日)



【1万口当たりの費用明細】

(2016年6月7日～2017年6月5日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式会社)	14 (14)	0.180 (0.180)
(b) 有価証券取引税 (株式会社)	3 (3)	0.033 (0.033)
(c) その他費用 (保管費用)	9 (9)	0.120 (0.120)
合計	26	0.333

期中の平均基準価額は、7,743円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

(2017年6月5日現在)

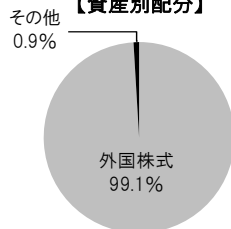
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	ベトナム乳業	食品・飲料・タバコ	ベトナムドン	ベトナム	38.6%
2	ピンググループ	不動産	ベトナムドン	ベトナム	9.6
3	サイゴンビール・アルコール	食品・飲料・タバコ	ベトナムドン	ベトナム	7.0
4	ベトナムバンク	銀行	ベトナムドン	ベトナム	5.8
5	マサングループ	食品・飲料・タバコ	ベトナムドン	ベトナム	5.7
6	ベトナムバンク	銀行	ベトナムドン	ベトナム	4.7
7	FPT	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	ベトナムドン	ベトナム	4.3
8	ハウザン製薬	医薬品他	ベトナムドン	ベトナム	4.2
9	キンドー食品	食品・飲料・タバコ	ベトナムドン	ベトナム	3.2
10	ベトロベトナムガス	公益事業	ベトナムドン	ベトナム	2.7
組入銘柄数			19銘柄		

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

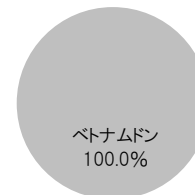
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2017年6月5日現在のものです。

(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数の著作権等＞

代表的な資産クラスの騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、SBIアセットマネジメントはその内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIX に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Index に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み・円ベース)は、MSCI inc.が開発した、世界の新興国の株式対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Index に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)は、Citigroup Index LLC が開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLC に帰属します。

○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)は、J.P.Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLC に帰属します。